

西宮 えびす



年の始めに、商売繁盛や家内安全を願う人々で賑わう十日えびす。関西では、親しみをこめて「えべっさん」と呼ばれています。笹や箕、熊手に付けられている「吉兆」と呼ばれる福々しい縁起物が十日えびすの活気を象徴しています。

平成11年 新春号

西宮神社 / 〒662-0974 兵庫県西宮市社家町1-17
TEL/0798-33-0321 FAX/0798-33-5355

えびす

平成11年 新春号

▼四季の境内 (カルガモの親子)



5月13日に発見された
小さいヒナも2ヶ月で
こんなに大きくなりました。

◎編集室から

社報「西宮えびす」も第10号をお届けすることができました。その間、年毎の祭事・行事をできるだけビジュアルにお伝えできればと心掛けて参りました。これに加え、新社務所に導入されるコンピューターシステムによって過去の資料やきめ細かい情報、興味のあるところをもっと詳しくといったご要望にもお応えできるようにしていきたいと思っております。

毎号様々な分野の方々に華を添えて頂いておりますが、今回は十日えびすにご縁のある浜村淳氏と招福に興味をお持ちの横尾忠則氏にご登場を頂きました。貴重なお話しを賜りましたことに感謝いたしますと共に益々のご活躍をお祈り申し上げます。(英)

西宮えびす平成11年新春号 (通巻第10号)

平成10年12月1日発行

発行/西宮神社

〒662-0974 兵庫県西宮市社家町1-17

編集/講務課広報

デザイン/OHTAファーズン

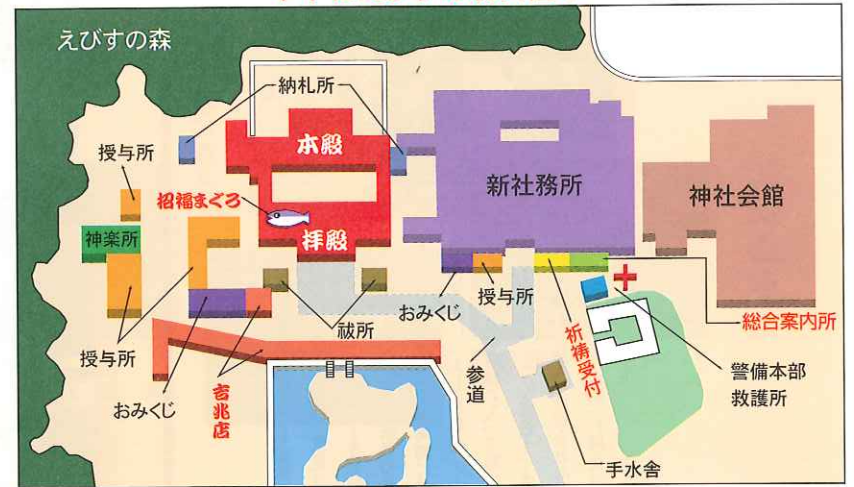
資料提供/サッポロビール・毎日放送・読売新聞大阪本社

協力/西宮吉兆福栄会・エビスシマダ

いぬづか写真室

お知らせ

◆十日えびすの境内図◆



◆新社務所竣工

氏子・崇敬者の皆様より多大なるご奉賛、ご尽力を賜りました震災復興工事も十一月の社務所改築工事の完成をもちまして一応の目処を見ることができました。ご関係の皆様方には厚く感謝をいたし、お礼申し上げます。新しく竣工しました社務所には、事務機能のほか、ご祈禱を受けられる方の待合所、団体参拝者の休憩所、コンピューターシステムの機能を提供するなど最新の機能を備えております。

つきましては、新年初詣・十日えびすにご祈禱を受けられる方のお申し込み場所が従来の本殿から新社務所に変更になります。講社関係の方の受付は、従前通り神社会館でいたします。

「十日えびす」にちなんだ 招福の品々、 平成11年も協賛の 団体・企業から発売予定



- 1 阪神米穀「えびす」のお米
- 2 西宮市内の日本酒醸造15社による共同銘柄「えびす」のお酒
- 3 サッポロビール「エビスビール」
- 4 神戸風月堂「えびす」
- 5 N.T.西日本テレカ「エビステレホンカード」
- 6 西宮郵便局「えびす」輸入はがき
- 7 阪神電気鉄道「えびす」やんカド「西宮えびす」
- 8 日本たばこ産業「十日えびすタバコ」

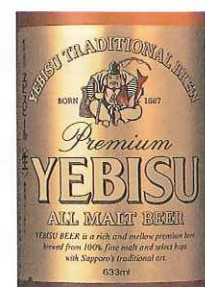
「ご存じですか?」

エビスビールの瓶に貼られているラベルをよく見てみると、たまにタイを二尾持ったえびす様に出会います。このえびす様は、「ラッキーエビス」と呼ばれ、日本に二本位の割合で多くいます。タイがダブルでめでたい。少し得をした気分になります。

ちなみに、当社の御分庫を東京目黒のビール工場に勧誘されたのが明治二十七年。やがてその地は恵比寿と呼ばれるようになり、現在ビール工場は恵比寿ガーデンプレイスとなっています。



ラッキーエビス



通常のラベル

年末年始のおもな祭典・行事

えびす面作り

十日えびすの縁起物である福箕や熊手、えびす面作りが宝塚市郊外の作業所で行われています。

迎春準備

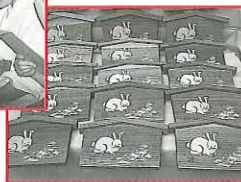
初詣の参拝者に授与する卯の干支鈴や絵馬、福矢などの準備が巫女によってすすめられています。

23日 巫女研修 ◆午後1時

初詣・十日えびすに笑顔で参拝者をお迎える臨場奉仕の巫女の研修会が行われます。

27日 煤払祭 ◆午前10時

清々しく新年を迎えるため、笹の葉が先端に付いた巨大なほうきで本殿の煤をお払いします。



不景気を吹き飛ばして福を呼ぶことを願って一生懸命に作っています。

形取りをした粘土を約10時間かけて蒸焼きしたあと、筆で二つとんぼをまき、ひんていします。

31日 大祓式 ◆午後4時

おはらいしき 人形に知らず知らずのうちに身についた穢（けがれ）を移して、清めのお祓いを行います。

31日 除夜祭 ◆午後6時

一年の安泰に感謝をする祝詞をあげたあと、拝殿前の福火に点火、夜を徹して新年を迎えます。



1日 初太鼓 ◆午前0時

さいたんさい わかみずしんじ 新年を祝い、社会の繁栄平和をお祈りします。灘の酒造家の代表が宮水を汲み出し神前にお供えします。



健康や無病息災の火を祈ります。



十日えびす

Q&A

なぜマグロが奉納されているのですか？

A 昭和四十四年に神戸市東部中央卸売市場が開設されたのを機会に水産物卸売協同組合が中心となって、商売繁盛を願って、参拝者に見てもらうために、も日本人好みで大きな魚ということで、鯛とマグロを翌年の十日えびすから奉納。マグロはその大きさのため鯛のように本殿にお供えすることができず、拝殿に供えられています。以降年々大きくなる出世魚のマグロに硬貨を張り付け願掛けをされる方もおられます。ちなみに昨年奉納されたものは、体長三メートル、重さ三百三十三キロ、お刺し身にするに千八百人分が取れるという地中海産の本マグロでした。



奉納されたマグロに硬貨を張り付ける参拝者

福男になるためのコツはあるのですか？

A 一月十日午前八時、表大門（赤門）の開門と同時に本殿までの参道約二百メートルを全力で疾走し、三着までが福男に選ばれます。表大門は忌籠神事のため九日の深夜十二時に閉じられますが、場所取りはその六時間前の午後六時頃から始まり、コースは最初直線で八十メートル、次に右四十五度で折れて七十メートル、次に左に鋭角に曲がって、最後に右へ直角にとった後、三メートルの坂を上って拝殿へ。本殿中央の屋根から垂れている綱についている札をつかめば福男となります。

平成五年から三年連続一番福を獲得した森本晋由さんによると、「表大門は観音開きで内側に開くのでスタートに有利なのは前列中央付近。難関は参道中央に立つ直径五センチの桶と拝殿手前の鋭角の曲がり角に続く上り坂。砂利や上り坂に足をとられるので、足は前に高く上げるイメージで大きく歩幅をとる。ゴールが行き止まりになっているので徐々にスピードを落としていくタイミングが難しい。番札を落とすまで約二十秒間息はしない」とのことです。



三年連続一番福を獲得した森本 晋由さん

1日 古武道奉納大会 ◆午前10時

西宮市の今津武道会、本體楊心流宗家により拝殿前特設舞台上、柔術・薙刀・居合・棒術などが奉納されます。

3日 元始祭 ◆午前9時30分

年の始めにあたり宮中において天皇が行われるお祭りに併せ、皇室と国家の繁栄をお祈りします。

5日 百太夫神社祭 ◆午前11時

ひやくだゆうじんじやさい えびす信仰を全国に広めた傀儡師の祖神をお慰めするお祭り。淡路島より人形浄瑠璃「えびす舞」が奉納されます。

8日 大マグロ奉納 ◆午前9時

十日えびすを前に神戸市東部水産物卸売協同組合などから三百キロを超える特大の本マグロが奉納されます。

十日えびす

9日 宵えびす

有馬温泉献湯式 ◆午後2時
宵宮祭 ◆午後4時

10日 本えびす

十日えびす大祭 ◆午前4時
開門神事福男選び ◆午前6時

11日 残り福

※初詣十日えびす期間中は境内駐車場が使用できません。ご参拝には電車バスをご利用ください。

初詣・十日えびすデータ		
	参拝者数	吉兆店・露店数
初詣 (元旦～3日)	約50万人	約300軒
十日えびす (9日～11日)	約110万人	約800軒



いい福持って帰って下さい。

十日えびすの間、境内には福箕や熊手など縁起物を主たるまら氷店の風流のいい掛声がひびきます。



無形文化財

えびす舞保存会の代表 居内まほさんが約1メートルのえびす様の人形を、初太鼓のリズムに合わせて操ります。

十日えびす

開門神事福男選び

1月10日午前6時表大門(赤門)が開かれると待ち構えた1,000名以上の参拝者が本殿を目指して猛ダッシュ。

えびす様に縁の深い日に先を競い合うこの行事には、商機を人より先につかもうとする商い成功の鉄則につながるものがあります。釣竿を持っておられるえびす様の姿は、根気と忍耐の象徴であるといわれていますが、鯛を釣るのは一瞬の好機です。



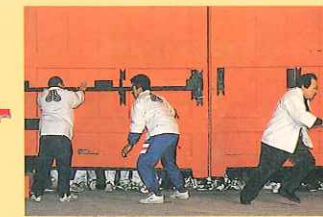
●坂道を駆け上り参拝へ



●待機約12時間、勝負27秒



●参拝者がどっと境内へ



●午前6時大太鼓を台図に開門



●とった！一番福



●名譽ある福男の認定書授与



●副賞の酒樽・米俵・焼鯛



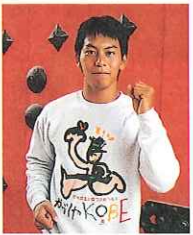
●福男による鏡開きと振る舞い酒

開門前にお待ちの先着1,000名の参加者には福袋を進呈する他、旅行などが当選する福引き整理券を配布します。

十日戎開門神事に協賛して一月十日の朝7時から10時の間にお集まりの先着1,000名様に福袋を進呈いたします。

十日戎開門神事 副賞協賛各位	
一賞	大福の酒 (徳島県産) 大福の鯛 (徳島県産) 大福の餅 (徳島県産)
二賞	大福の酒 (徳島県産) 大福の鯛 (徳島県産) 大福の餅 (徳島県産)
三賞	大福の酒 (徳島県産) 大福の鯛 (徳島県産) 大福の餅 (徳島県産)
四賞	大福の酒 (徳島県産) 大福の鯛 (徳島県産) 大福の餅 (徳島県産)
五賞	大福の酒 (徳島県産) 大福の鯛 (徳島県産) 大福の餅 (徳島県産)
六賞	大福の酒 (徳島県産) 大福の鯛 (徳島県産) 大福の餅 (徳島県産)
七賞	大福の酒 (徳島県産) 大福の鯛 (徳島県産) 大福の餅 (徳島県産)
八賞	大福の酒 (徳島県産) 大福の鯛 (徳島県産) 大福の餅 (徳島県産)
九賞	大福の酒 (徳島県産) 大福の鯛 (徳島県産) 大福の餅 (徳島県産)
十賞	大福の酒 (徳島県産) 大福の鯛 (徳島県産) 大福の餅 (徳島県産)

平成10年開門神事データ
 ●天候/曇り・気温17.7℃
 ●参加者/1,200人
 ●一番福/吉田 光一郎(19)
 ●二番福/平尾 亮(21)
 ●三番福/大喜田 洋一郎(21)



2年連続二番福
 仏教大学4年生 平尾 亮さん

2度参加して2度共二番福、悔しくもありますが、2度も二番福に選ばれた幸運を素直に喜ぼうとプラス思考で望んでいます。福男になって、手に入れたのは「出会いの福」。一昨年、編入学という形で大学を移り、新しい環境の中で不安ばかり抱えていました。しかし僕を待っていたのは、新たな素晴らしい出会い、そして変わらぬ友情……。やっぱり僕はえべっさんに守られているのかな、と思ったりします。

門が開くまでの数時間は初めて会った人でも心が通じ合える不思議な時空。勝ち負けにこだわるのではなく、僕を支えてくれた多くの人達の幸福を願い、これからもずっと参加し続けたいと思うし、皆さんにも参加してもらいたいと思っています。

タレント 浜村 淳さん
 ●同志社大学卒業後、ラジオDJで活躍。博識でわかりやすい言葉づかいが浜村節と呼ばれている関西を代表する司会・映画解説者。

私は一月十日が誕生日で、えべっさんとは生まれながらに縁があります。京都の出身で大阪で仕事をして豊中に住んでいます。どこにいてもえびす神社はありますし、お手伝いもさせて頂いています。

西宮のえべっさんには、庶民的な中にも本社としての風格を感じます。十日えびすの参拝者がどんなに増えても、鎌倉時代の記録にも残されている忌籠の神事を今日まで厳修されているために九日の深夜十二時に門が閉じられ、外で待たなければなりません。翌朝六時の開門と同時に競いあつて勝ち取るえびす様の福は格別なものです。その幸運の持ち主の福男が福娘と力を合わせれば最高の開運ですね。



▲一番福の吉田さんと握手する善齋さん

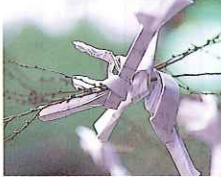
福男と福娘で、開運ですわねえ



▲ジムキレスビさん

福男になつて、運気が上昇しています

▲スタート直前の心境を語る赤井さんと修さん



●毎日放送「なにわ友あれ赤井英和の番組収録で参拝に訪れた赤井英和さんと泉修さん。どちらが速いか挑戦の結果は修さんの勝ち。赤井さんは「やっぱり年には勝てませんね。でも福は授かりました」。

アメリカ・シカゴのイリノイ大学で東アジア文化を研究されている甲南大学留学生のジム・キレスビさんは「真冬の野外で何時間も待つている日本人の精神の強さに驚きました。足に自信はありませんでしたが、伝統文化を共有する貴重な体験ができました」。

「森本さんから電話で「僕の方まで頑張つて」と言われ、気合を入れたのですが、場所取り、スタートとも最高でしたが、力負けですね。善齋さんはちょっとびり悔しそうに「世代交代」を認め、今は勝ちを狙うのではなく、楽しむために走ります」。

「私たちも参加しました?!」

「毎日放送「なにわ友あれ赤井英和の番組収録で参拝に訪れた赤井英和さんと泉修さん。どちらが速いか挑戦の結果は修さんの勝ち。赤井さんは「やっぱり年には勝てませんね。でも福は授かりました」。

「毎日放送「なにわ友あれ赤井英和の番組収録で参拝に訪れた赤井英和さんと泉修さん。どちらが速いか挑戦の結果は修さんの勝ち。赤井さんは「やっぱり年には勝てませんね。でも福は授かりました」。

「毎日放送「なにわ友あれ赤井英和の番組収録で参拝に訪れた赤井英和さんと泉修さん。どちらが速いか挑戦の結果は修さんの勝ち。赤井さんは「やっぱり年には勝てませんね。でも福は授かりました」。

「毎日放送「なにわ友あれ赤井英和の番組収録で参拝に訪れた赤井英和さんと泉修さん。どちらが速いか挑戦の結果は修さんの勝ち。赤井さんは「やっぱり年には勝てませんね。でも福は授かりました」。

「毎日放送「なにわ友あれ赤井英和の番組収録で参拝に訪れた赤井英和さんと泉修さん。どちらが速いか挑戦の結果は修さんの勝ち。赤井さんは「やっぱり年には勝てませんね。でも福は授かりました」。

「毎日放送「なにわ友あれ赤井英和の番組収録で参拝に訪れた赤井英和さんと泉修さん。どちらが速いか挑戦の結果は修さんの勝ち。赤井さんは「やっぱり年には勝てませんね。でも福は授かりました」。

「毎日放送「なにわ友あれ赤井英和の番組収録で参拝に訪れた赤井英和さんと泉修さん。どちらが速いか挑戦の結果は修さんの勝ち。赤井さんは「やっぱり年には勝てませんね。でも福は授かりました」。

「毎日放送「なにわ友あれ赤井英和の番組収録で参拝に訪れた赤井英和さんと泉修さん。どちらが速いか挑戦の結果は修さんの勝ち。赤井さんは「やっぱり年には勝てませんね。でも福は授かりました」。

「毎日放送「なにわ友あれ赤井英和の番組収録で参拝に訪れた赤井英和さんと泉修さん。どちらが速いか挑戦の結果は修さんの勝ち。赤井さんは「やっぱり年には勝てませんね。でも福は授かりました」。

「毎日放送「なにわ友あれ赤井英和の番組収録で参拝に訪れた赤井英和さんと泉修さん。どちらが速いか挑戦の結果は修さんの勝ち。赤井さんは「やっぱり年には勝てませんね。でも福は授かりました」。



宮水祭 ◎10月3日

今回で第十回目となる宮水まつりが斎行されました。震災以降中止されていたパレードも前日より復活、宮水娘が宮水発祥の井戸から汲み上げた宮水を角樽に詰め、時代衣装にふんした酒造メーカーの社員達が角樽の入った唐櫃を担ぎ、古式ゆかしく当社まで運び、神前に供え、西宮の酒造会社の統一銘柄「えび」さんの酒の醸造成功を祈願しました。

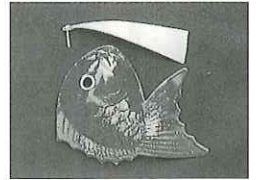


阪神大震災で全壊した社務所の上棟式が斎行されました。祝詞奏上に続き、参列の氏子総代らが棟木と建物の基壇となる博士杭とを結び綱を引く曳綱の儀、工事関係者によるホルト締めが行われ、福餅や上棟銭が散られました。この新社務所の竣工で、当社の震災復興工事は完了します。



社務所上棟式 ◎7月30日

吉兆の種類



海の幸 のしアワビ、タイ

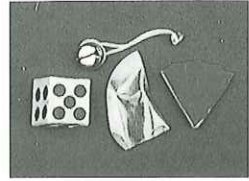


山の幸 米俵、はぜ袋、枡、小槌、箕



商の幸 金箱、大判、小判、金封、取鉢、大福帳、蔵の鍵

里の幸 サイコロ、福鈴、金の烏帽子、扇



本家 西宮えびす

西宮のえびすさんの縁起物といえば、神社から授与される福笹と十日えびすの期間中に境内に軒を連ねる吉兆店の熊手(さらえ)や福箕などが知られています。

笹は常緑で生命力が強く、殺菌や薬用の効果があることから古来から神事のお清めなどに用いられて来ました。また真つすぐに伸びる竹の姿が商売人の正直な心を象徴しているとか、えびす様が釣り竿を持つているからだともいわれています。十日えびすの縁起物に笹が用いられようになったのは、江戸時代頃からで「商売繁盛で笹もつてこい」の掛け声からもわかるようにもともとは、笹を持った参拝者が吉兆店で小判や俵などの吉兆と呼ばれる縁起物を付けてもらっていました。戦後は空襲で被災した社殿を復興するために結成された奉賛会がくじ引きの賞品として短冊をつけた笹を用いるようになり、社殿復興後の昭和38年からは紙製の笹にお札や福袋などをつけた神社からの授与品となつて現在に至っています。

十日えびすの間は、十二軒(十八店舗)の店で構成する西宮吉兆福栄会の吉兆店がそれぞれに工夫を凝らした飾り付けでお祭りの雰囲気を感じさせています。箕や熊手に付けられているえびす様のお面は、型をとつた粘土を約十時間かけて素焼きにした後に手書きで顔を書き入れ彩色を施して作っています。えびす面はもともとは、京都東山で伏見人形の流

れを汲む職人が作っていました。戦後宝塚や西宮に移り鮮やかな色彩の博多人形の系統になり、現在は地場伝統産業となつています。熊手や箕は農家の副業手内職としての実用品でしたが、謡曲「高砂」の翁が熊手を持つていることからわかるように空間を清め魂をかき集める神具としての機能ももっています。つまり熊手や箕はそれ自体が縁起物であると同時に外にある福も集めていくという招福機能があります。笹や熊手、箕などそれぞれ自体が神聖なものにえびす様のお札やお面、吉兆とよばれる海山の幸や金銀財宝が添えられることで招福機能は一段と高まり、十日えびすが活気あふれるお祭りとなっています。

「福の神さんとの縁」

子供の頃、うちには八百万の神さんが家中に沢山祀つてありました。父が商人で母方の実家が神道だったものから、私も登校前に神さんを拝んで行くのが習慣でした。今でも足に残っている大きな傷あとは、小学校一年生のときに小川に落ちて大怪我をした時のものなんです。この時も病院には行かず、母が鯛の粉末と神社の御油を塗り、息を吹きかけて治してくれました。このように神さんとの縁は子供の頃から自然と身についているように思っています。

芸術というのは、直感的なものを最優先すべきなんです。これは神さんに自然に導かれているようです。今、えびす様をはじめ招福縁起まつり作品に取り組んでいるのですが、これは、いにしえからの縁による福の神さんへのラブレター、いわゆる奉納だと思っています。



よこお ただひり 画家 横尾 忠則氏



酒蔵ルネサンス ◎10月3日〜4日

今回で第二回目となる酒蔵ルネサンスが会場を当社境内に移して開催されました。特設舞台で文楽や酒造り歌、全国各地の伝統芸能などを紹介。舞台の周りは、日本酒の試飲や酒器や鮮魚の即売、地元企業の模擬店などで賑わいました。

観月祭 ◎10月5日

中秋の名月、本殿前舞台において観月祭が厳かに斎行されました。祭典では、斎主の祝詞に続き原筈会が女人舞楽「五節舞」「柳花苑」を奉納。その後、神社会館で月夜に因んだ童謡を聞きながら晩餐会が開催されました。



招福縁起物まつり ◎7月24日〜8月23日



「神戸から不況にあえぐ日本全国に招福の風を吹き込みたい」と神戸ハーバランドで招福縁起物まつりが開催されました。会場には横尾忠則さんのオリジナルポスターやこじまアオさんのえびすオブジェ、当社の黄金の鯛や福箕、福熊手などが展示されました。

